

2010年度第1四半期 決算説明資料

2010年7月30日

川崎重工業株式会社



目次

I. 2010年度第1四半期連結決算の概要

◇ 第1四半期決算実績サマリー	1
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ①	2
◇ 前年同期比損益増減要因分析 ②	3
◇ セグメント別決算実績	4
船舶	5
車両	6
航空宇宙	7
ガスタービン・機械	8
プラント・環境	9
モーターサイクル&エンジン	10
精密機械	11
◇ 財政状態およびキャッシュフロー	12

II. 2010年度業績見通し

◇ 第2四半期(累計)業績見通し修正の概要	13
◇ 通期業績見通しサマリー	14
◇ セグメント別通期業績見通し	15
◇ 研究開発費・設備投資・期末従業員数	16
(補足)セグメント情報開示の変更について	17

I . 2010年度第1四半期連結決算の概要

第1四半期決算実績サマリー

(億円)

	2009年度 1Q	2010年度 1Q	増 減
受 注 高	1,917	3,294	+1,377
売 上 高	2,567	2,773	+206
営業損益	▲53	116	+170
経常損益	▲14	113	+128
四半期純損益	▲17	58	+76

売上加重 平均レート	ドル(¥/\$)	97	93
	ユーロ(¥/EUR)	132	122

【受注高】

車両、航空宇宙において大型受注があったこと等により、全体でも大幅な増加となった

【売上高】

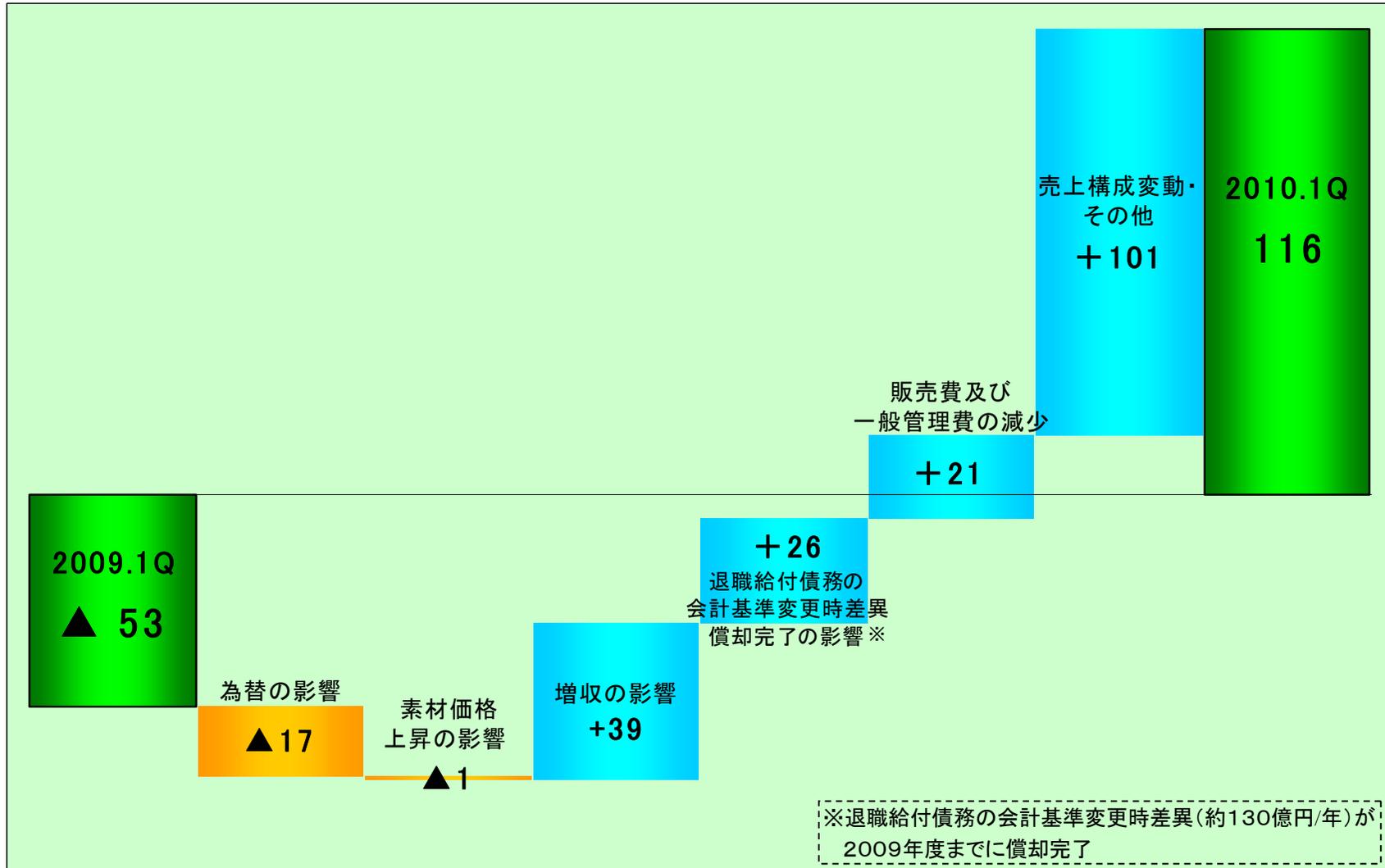
新興国向け取引が堅調に推移した精密機械で大幅な増収となったこと等により、全体でも増収となった

【損益】

円高の影響はあったものの、量産品部門を中心とした固定費削減等の各種収益改善策の効果等により、大幅に改善した

前年同期比損益増減要因分析 ①

【営業損益】 前年同期比 +170億円(2009.1Q ▲53億円 ⇒ 2010.1Q 116億円)



前年同期比損益増減要因分析 ②

【営業外損益】 前年同期比 ▲41億円(2009.1Q 38億円 ⇒ 2010.1Q ▲2億円)

・金融収支（受取配当金を含む）	0億円（ ▲ 3億円 ⇒ ▲ 3億円）
・持分法による投資利益	+19億円（ 3億円 ⇒ 22億円）
・為替差損益	▲42億円（ 32億円 ⇒ ▲ 9億円）
・その他	▲19億円（ 6億円 ⇒ ▲12億円）

【特別損益】 前年同期比 ▲4億円(2009.1Q 0億円 ⇒ 2010.1Q ▲4億円)

・資産除去債務会計基準の 適用に伴う影響額	▲2億円（ 0億円 ⇒ ▲2億円）
・関係会社貸倒引当金繰入額	▲2億円（ 0億円 ⇒ ▲2億円）

セグメント別決算実績

(億円)

	受注高			売上高			営業損益		
	2009年度 1Q	2010年度 1Q	増減	2009年度 1Q	2010年度 1Q	増減	2009年度 1Q	2010年度 1Q	増減
船 舶	18	16	▲1	394	286	▲107	▲6	33	+39
車 両	255	1,015	+760	375	266	▲108	19	17	▲1
航空宇宙	114	365	+251	266	342	+75	▲19	▲18	+1
ガスタービン・機械	523	330	▲192	447	499	+51	12	40	+27
プラント・環境	158	320	+162	165	204	+39	▲5	2	+8
モーターサイクル&エンジン	580	651	+70	580	651	+70	▲39	7	+47
精密機械	131	350	+218	165	278	+113	▲3	39	+42
そ の 他	135	242	+107	172	244	+71	▲3	0	+4
調 整 額	—	—	—	—	—	—	▲8	▲6	+1
合 計	1,917	3,294	+1,377	2,567	2,773	+206	▲53	116	+170

※ 2009年度は2010年度からの新事業区分および新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → 17ページ参照

※ 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

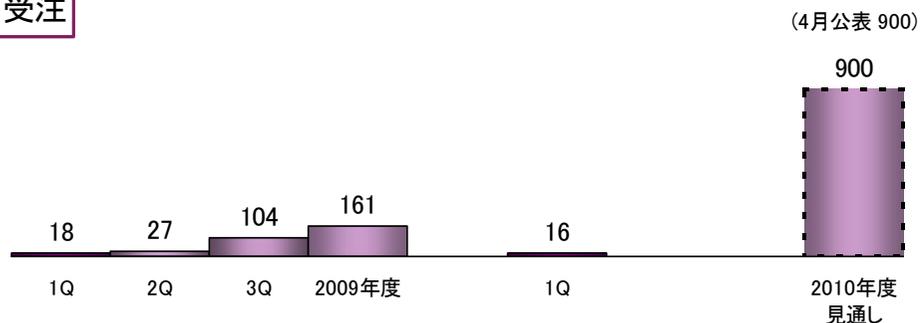
船舶

主要製品：LNG船、LPG船、VLCC、バルクキャリア、潜水艦 等

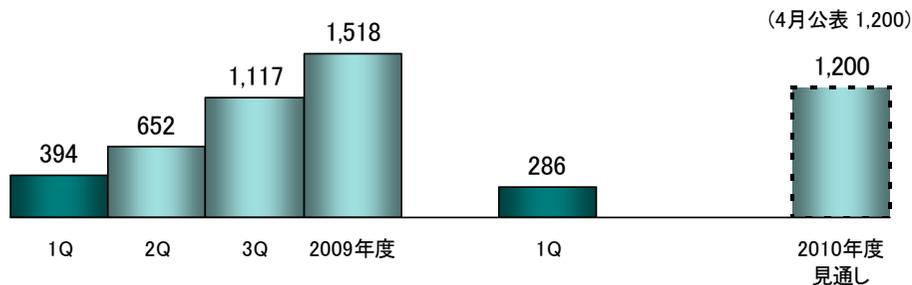
(億円/各期の数値は累計)

※ 2009年度の営業損益は、2010年度からの新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → 17ページ参照

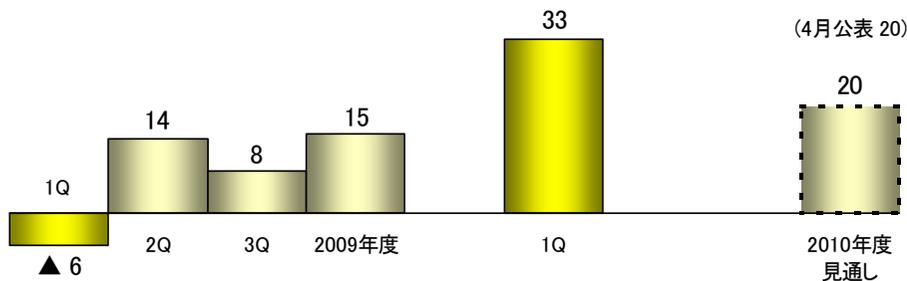
受注



売上



営業損益



◇ 当第1四半期実績 (前年同期比)

受注 前年同期と同じく新造船の受注なし
 売上 大型船の売上減少
 営業損益 採算性の向上等により大幅に改善

<新造船の受注・売上隻数> (隻)

	受注(1Q)		売上(1Q)	
	2009年度	2010年度	2009年度	2010年度
LNG船			3(2)	3(3)
小型LNG船				
LPG船			2(2)	2(2)
VLCC			1(0)	
バルクキャリア			3(2)	9(7)
潜水艦			2(2)	1(1)
合計			11(8)	15(13)

(注)括弧内は進行基準売上(内数)

◇ 2010年度見通し (前年度比)

受注 新造船受注の増加
 売上 大型船の減少により減収
 営業損益 採算性の向上等により増益

◇ (参考)中国での合併事業について

1995年12月、中国海運最大手COSCO社と合併により中国の南通市にNACKSを設立、2008年には拡張工事を完了。川崎造船の技術支援のもと、大型建造ドック2基でCOSCO社をはじめ中国国内外の顧客向けに超大型コンテナ船・大型原油タンカー・大型鉱石運搬船・自動車専用船等、多種多様な商船を建造。(持分法適用会社)

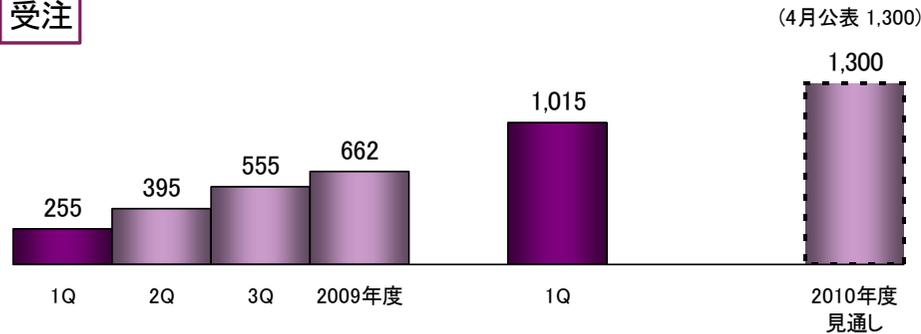
車 両

(億円/各期の数値は累計)

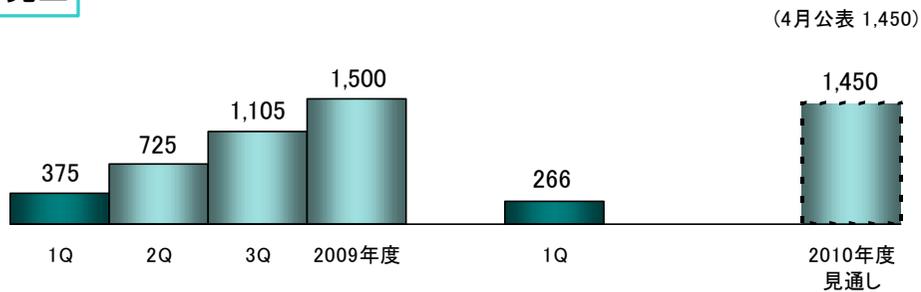
主要製品： 各種電車(新幹線含む)、機関車、客車、ホームドア、ギガセル(二次電池)

※ 2009年度は2010年度からの新事業区分(除く、破碎機)および新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → 17ページ参照

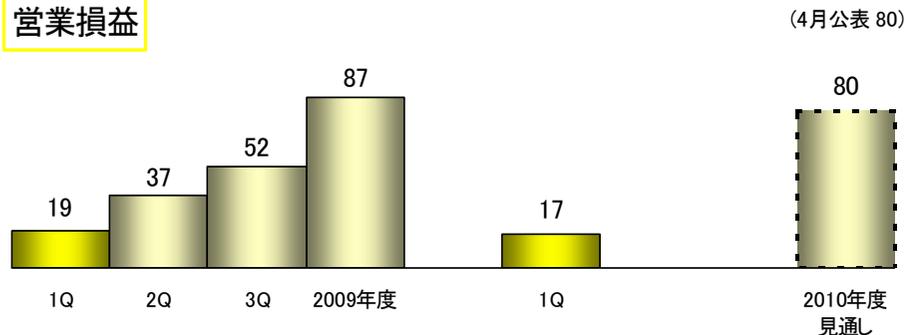
受注



売上



営業損益



◇ 当第1四半期実績 (前年同期比)

受注 大口のワシントン首都圏交通局向け地下鉄電車を受注したこと等により大幅に増加

売上 海外向け鉄道車両の減少等

営業損益 減収および円高の影響等はあったものの、諸費用圧縮等により前年同期並みを維持

◇ 2010年度見通し (前年度比)

受注 JR各社向け、海外向け鉄道車両の増加等

売上 部品等小口案件の減少等あるものの横ばい

営業損益 円高の影響等はあるものの、前年度並を維持

◇ (参考)海外新規プロジェクトへの取り組み状況

- ・北米
 - －地下鉄、客車・電車を中心に受注活動中
 - －北米市場向けLRVを開発中
- ・高速鉄道
 - －北米、ベトナム等で計画あり、活動中
- ・インド貨物専用新線西回廊(1期)(デリー～ムンバイ)
 - －円借款案件、電気機関車を受注すべく活動中
- ・アジア地域のE&M案件
 - －他社とのコンソーシアムにより対応中

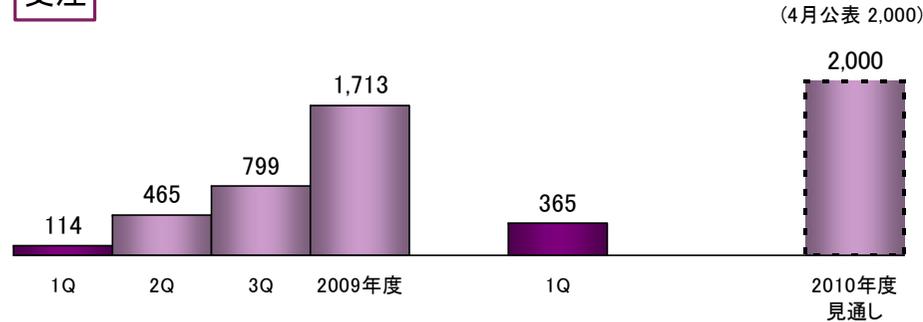
航空宇宙

(億円/各期の数値は累計)

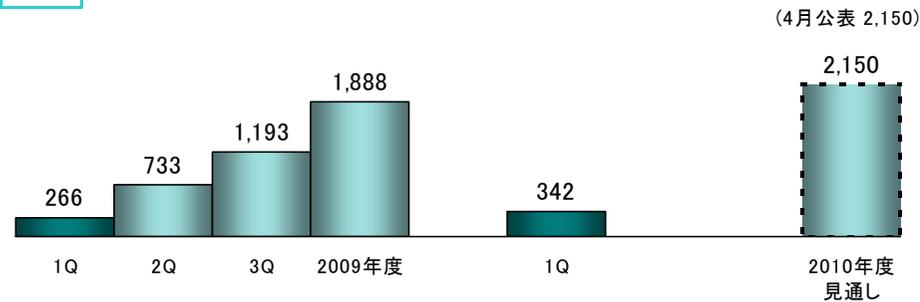
主要製品： 防需航空機、民需航空機分担製造品(ボーイング・エンブラエル)、誘導機器システム

※ 2009年度の営業損益は、2010年度からの新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → [17ページ参照](#)

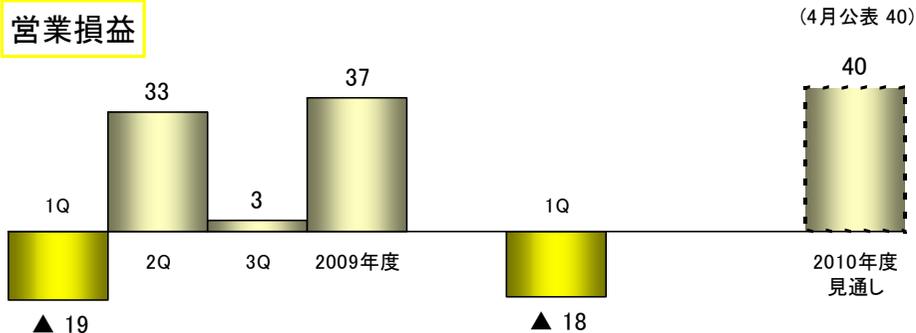
受注



売上



営業損益



◇ 当第1四半期実績 (前年同期比)

受注 BOEING社向けB777分担製造品等の増加

売上 防需案件およびBOEING社向けB787分担製造品等の増加

営業損益 売上高の増加があったものの、円高の影響等により前年同期並み

◇ 2010年度見通し (前年度比)

受注 BOEING社向けB787、B777分担製造品の増加

売上 XP-1量産機、BOEING社向けB787分担製造品の生産本格化により増収

営業損益 量産初期の投資負担が大きく微増

◇ (参考)

・防需航空機分野：

次期輸送機(XC-2)の試作1号機は当社岐阜工場において製造され、2010年1月に初飛行した後、予定した全ての各種社内試験を完了し、2010年3月30日、同工場において防衛省に納入した。

・民需航空機分野：

「B787ドリームライナー」の増産に向け、2010年3月、名古屋第一工場に新工場(南工場)が完成。2006年7月に完成した北工場と同様に、各種の最新鋭設備を導入し、複合材部品の加工から前部胴体までの組立を一貫生産できる製造ラインを構築。

・宇宙分野：

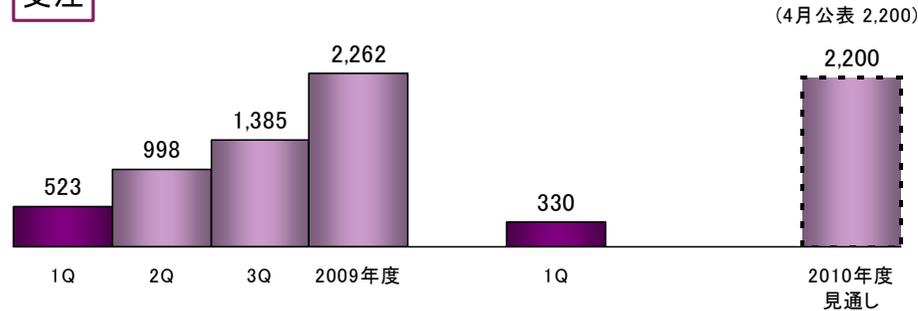
2010年6月、HII-Aロケット18号機用の衛星フェアリングを出荷。

ガスタービン・機械

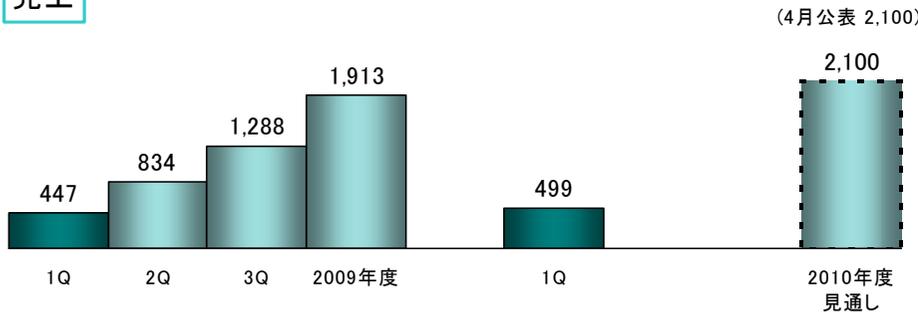
主要製品： 航空機用エンジン、産業用ガスタービン・コージェネレーション、陸用・船用タービン、ディーゼル機関、空力・水力機械
 (億円/各期の数値は累計)

※ 2009年度の営業損益は、2010年度からの新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → 17ページ参照

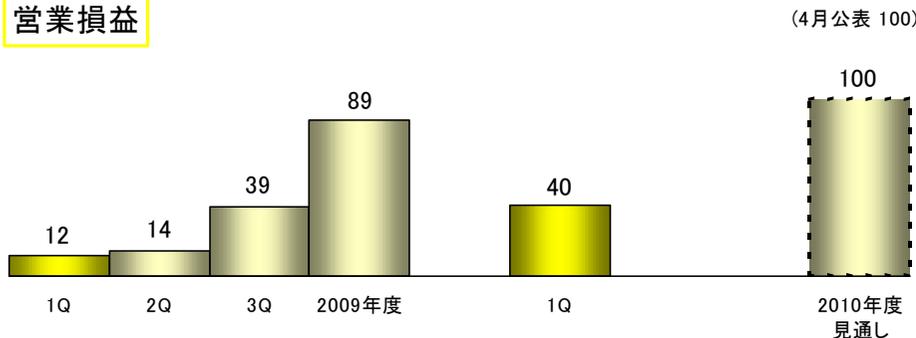
受注



売上



営業損益



◇ 当第1四半期実績 (前年同期比)

受注 前年同期に大口受注のあった航空エンジン分担
 製造品や船用ディーゼル主機関等の減少
 売上 ガス圧縮機設備等の増加
 営業損益 増収等により増益

◇ 2010年度見通し (前年度比)

受注 前年度並みを計画
 売上 船用機器、空力機械等の増加により増収
 営業損益 増収等により増益

<航空エンジン 主要参画プロジェクト概要>

	V2500	Trent1000	TrentXWB
主な搭載機	A320 他	B787	A350
参画方式	Full Partner方式	RRSP方式 ^(※)	RRSP方式 ^(※)
当社参画比率	約6%	約8.5%	約7%
担当部位	ファンケース、 低圧圧縮機のブレード、 ペーン、ディスク他	中圧圧縮機(IPC) モジュール	中圧圧縮機(IPC) モジュール

^(※)Risk & Revenue Sharing Partner方式

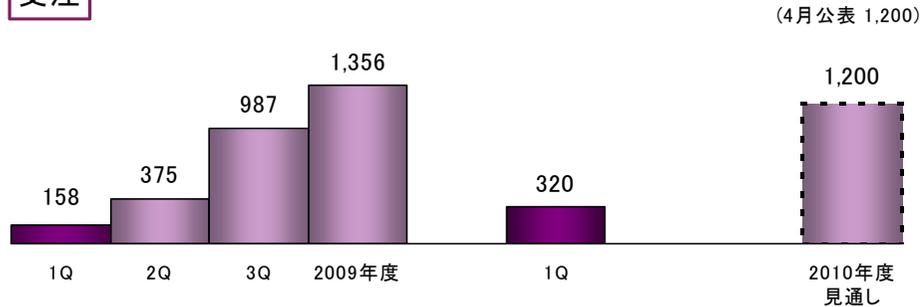
プラント・環境

主要製品： 産業用プラント(セメント、化学等)、発電プラント、LNG・LPGタンク、都市ごみ焼却施設、掘削機、破碎機

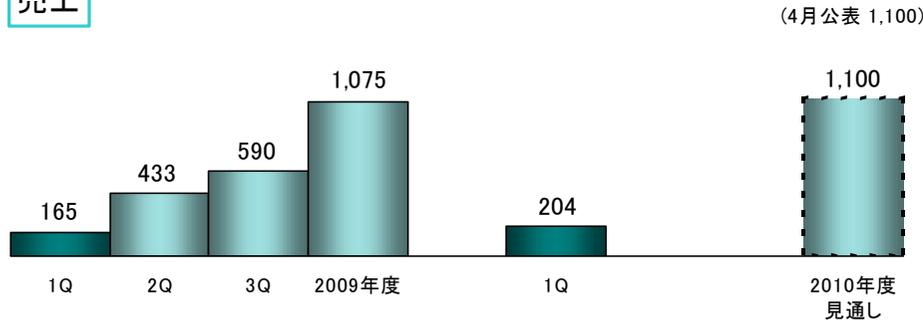
(億円/各期の数値は累計)

※ 2009年度は2010年度からの新事業区分(含む、破碎機)および新会計基準の考え方にに基づき再計算した数値 → [17ページ参照](#)

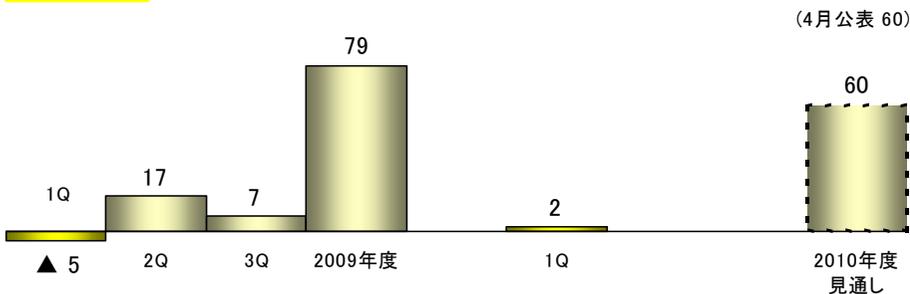
受注



売上



営業損益



◇ 当第1四半期実績 (前年同期比)

受注 国内外の各種プラントの増加

売上 トルクメニスタン向け大型肥料プラントや国内向けLNG貯槽等の増加

営業損益 増収等により損益改善

◇ 2010年度見通し (前年度比)

受注 海外向け大型案件の減少

売上 大型案件は減少するものの微増

営業損益 高採算案件の減少により減益

◇ (参考)中国での合併事業について

2006年より中国セメント業界最大手のCONCHセメントと合併事業を開始。現在までに3つの合併企業を設立し、中国におけるセメント排熱発電設備・セメント製造設備(プレヒーター、キルン、ミル等)の設計から製造、販売、アフターサービスまでの一貫体制を確立。今後さらに、ガス化炉とセメントキルンを組み合わせたごみ処理設備や高機能膜を利用した水処理設備など、環境保全対策・省エネルギー技術の普及に貢献していく。

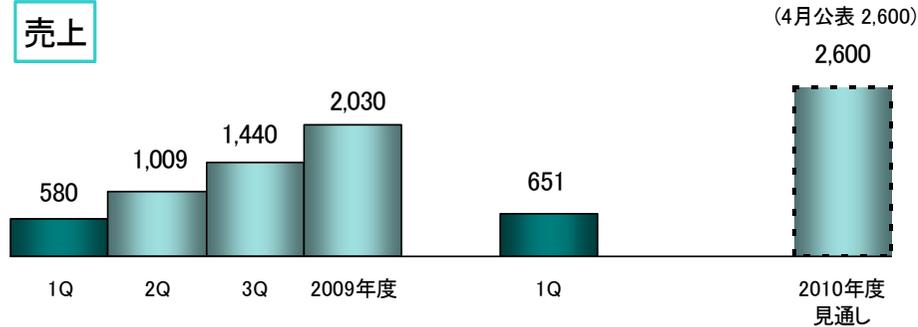
モーターサイクル&エンジン

(億円/各期の数値は累計)

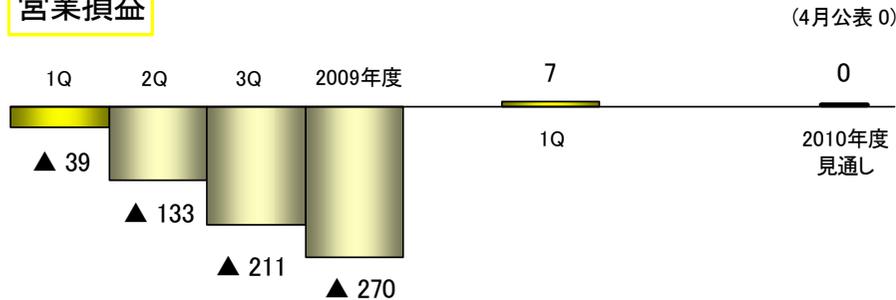
主要製品： 二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト、汎用エンジン

※ 2009年度は2010年度からの新事業区分(除く、ロボット)および新会計基準の考え方にに基づき再計算した数値 → 17ページ参照

売上



営業損益



◇ 当第1四半期実績 (前年同期比)

売上 新興国での販売増等

営業損益 円高の影響はあったものの、増収に加え、前年度までに実施した緊急収益改善策の効果が発現したこと等により大幅に改善

◇ 2010年度見通し (前年度比)

売上 前年度に実施した在庫調整の効果、新興国市場での積極的な拡販等により増収

営業損益 増収に加え、前年度までに実施した事業構造改革の効果により大幅に改善

◇ (参考)

- 中国においてKYMCO社と合併で汎用ガソリンエンジンの生産・販売会社CK&Kを設立。工場は2010年1月より稼働を開始した。(持分法適用会社)
- 2009年10月、ブラジル現地法人KMBで二輪車の生産を開始。
- 2010年7月1日に、インドに二輪車の輸入・販売を手がける現地法人IKMを設立。

<コンシューマー向け製品 地域別売上台数・金額>

(千台、億円)

	2009年度				2010年度			
	1Q		通期		1Q		通期見通し	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額
国内	6	47	17	129	4	29	16	122
北米	25(19)	179	80(49)	563	27(15)	208	126(66)	870
欧州	24	188	72	562	22	161	72	588
新興国等	46	83	228	451	66	144	296	623
合計	101	497	397	1,705	119	542	510	2,203

注1)二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト(「ジェットスキー」)

及びこれらの関連製品を含む。

注2)括弧内は二輪車分を示す。(内数)

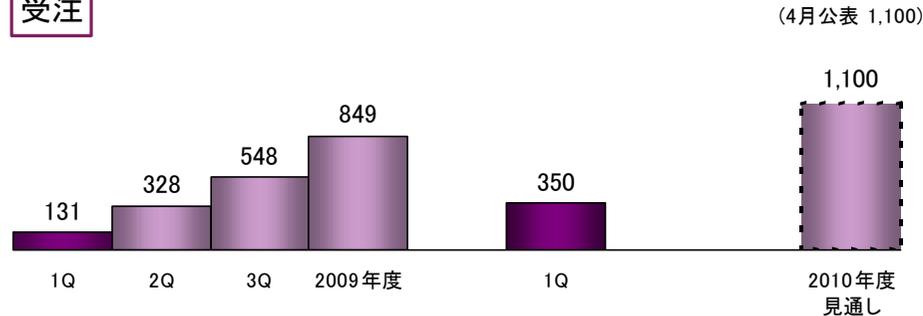
精密機械

主要製品：油圧機器（ポンプ・モーター・バルブ）、陸用油圧装置、船用油圧装置、精密機械・機電製品、産業用ロボット

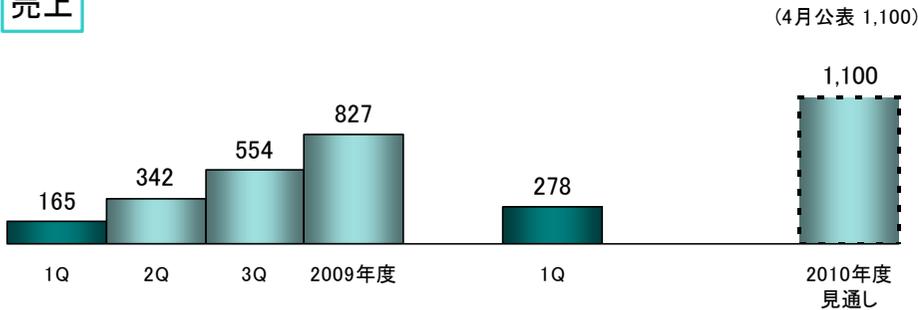
（億円/各期の数値は累計）

※ 2009年度は2010年度からの新事業区分（含む、ロボット）および新会計基準の考え方に基づき再計算した数値 → 17ページ参照

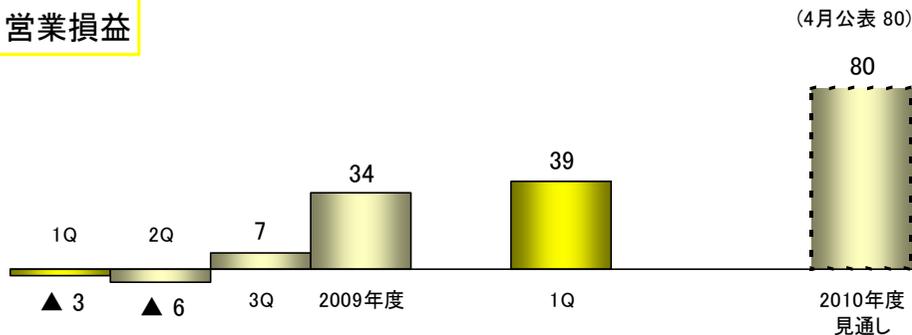
受注



売上



営業損益



◇ 当第1四半期実績 (前年同期比)

受注 新興国での建設機械向け油圧機器の増加
 売上 建設機械向け油圧機器および半導体製造装置メーカー向け等の産業用ロボットの売上増加
 営業損益 増収等により損益改善

◇ 2010年度見通し (前年度比)

受注・売上 アジア・新興国における建設機械向け油圧機器および半導体製造装置メーカー向け産業用ロボットの需要回復により増加
 営業損益 増収により増益

◇ (参考)中国での事業展開について

中国における需要増に対応すべく、中国蘇州に現地法人を設立し、2006年8月より油圧機器の生産を開始。さらに、中国企業と合併で浙江省に油圧機器生産会社を設立し、2010年4月より生産を開始した。これら二つの現地生産会社の製品を中国全土の顧客に供給すべく、2010年4月に上海に販売会社を設立・営業開始し、今後さらなる成長が見込まれる中国建設機械市場で当社グループのプレゼンスを高めるとともに、事業のさらなる拡大・深化に向けて体制を整えた。

財政状態およびキャッシュフロー

【財政状態】

(億円)

	2009年度 4Q末	2010年度 1Q末
総資産	13,524	13,255
自己資本 (自己資本比率)	2,770 (20.4%)	2,757 (20.8%)
有利子負債残高 (NET有利子負債)	4,289 (3,941)	4,501 (4,246)
NET D/Eレシオ	142%	153%

注) 有利子負債残高にはリース債務を含む

【キャッシュフロー】

(億円)

	2009年度 1Q	2010年度 1Q
営業キャッシュフロー	▲272	1
投資キャッシュフロー	▲228	▲123
フリーキャッシュフロー	▲500	▲121
財務キャッシュフロー	403	19

Ⅱ. 2010年度業績見通し

第2四半期(累計)業績見通し修正の概要

(億円)

	2010年度 2Q累計見通し			(参考) 2009年度 2Q累計	【修正の理由等】
	4月公表	今回公表	4月公表比	実績	
売上高	5,800	5,800	0	5,160	<ul style="list-style-type: none"> ・新興国向け取引が堅調に推移した第1四半期の実績を受けて、第2四半期(累計)の営業利益、経常利益および四半期純利益見通しをそれぞれ上方修正する ・ただし、通期業績見通しについては、先進国経済や為替および資材費動向等の先行き不透明な要因があるため、4月公表値を据え置く ・なお、見通しにおけるユーロの前提レートを、4月公表の125円より115円に変更する
営業損益	70	150	+80	▲61	
経常損益	60	140	+80	▲12	
四半期純損益	50	70	+20	▲62	

実績/ 前提 レート	ドル(¥/\$)	90	90
	ユーロ(¥/EUR)	125	115

96
133

注) 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

通期業績見通しサマリー

(億円)

	2009年度 実績	2010年度 見通し	増 減
受 注 高	10,012	12,400	+2,387
売 上 高	11,734	12,800	+1,065
営業損益	▲13	320	+333
経常損益	142	320	+177
当期純損益	▲108	200	+308

【受注高】

プラント・環境などで減少が見込まれるものの、船舶、車両等で大幅な回復を見込む

【売上高】

船舶などで減収が見込まれるものの、モーターサイクル&エンジン、精密機械等の量産品部門で市場環境の緩やかな改善による増収を見込む

【損益】

二輪車の販売増加、および前年度までに実施した事業構造改革の効果により、モーターサイクル&エンジンの大幅な改善を見込む

実績/前提	ドル(¥/\$)	93	90
レート	ユーロ(¥/EUR)	130	115

注) 見通しにおけるユーロの前提レートを、4月公表の125円より115円に変更
なお、前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

(参考) 為替影響度

1円の変動による影響額

(億円)

	営業利益	経常利益
ドル	18	12
ユーロ	3	3

セグメント別通期業績見通し

(億円)

	受注高		売上高		営業損益	
	2009年度 実績	2010年度 見通し	2009年度 実績	2010年度 見通し	2009年度 実績	2010年度 見通し
船 舶	161	900	1,518	1,200	15	20
車 両	662	1,300	1,500	1,450	87	80
航空宇宙	1,713	2,000	1,888	2,150	37	40
ガスタービン・機械	2,262	2,200	1,913	2,100	89	100
プラント・環境	1,356	1,200	1,075	1,100	79	60
モーターサイクル&エンジン	2,030	2,600	2,030	2,600	▲270	0
精密機械	849	1,100	827	1,100	34	80
そ の 他	975	1,100	978	1,100	▲10	10
調 整 額	—	—	—	—	▲75	▲70
合 計	10,012	12,400	11,734	12,800	▲13	320

※ 2009年度は2010年度からの新事業区分および新会計基準の考え方にに基づき再計算した数値 → 17ページ参照

※ 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

研究開発費・設備投資・期末従業員数

(億円・人)

	2009年度 実績	2010年度 見通し	増 減
研究開発費	380	405	+24
設備投資	592	660	+68
減価償却費	514	540	+26
国内	24,396	24,600	+204
海外	7,901	7,800	▲101
期末従業員数	32,297	32,400	+103

(補足)セグメント情報開示の変更について

<事業区分並びに事業区分名称の変更>

2010年4月より社内管理区分を変更しており、事業区分並びに事業区分名称を以下のとおり変更している。

事業区分の変更

破碎機部門 : 「車両事業」から「プラント・環境事業」へ

ロボット部門 : 「汎用機事業」から「精密機械事業」へ

事業区分名称の変更

(旧)「汎用機事業」 ⇒ (新)「モーターサイクル&エンジン事業」

(旧)「油圧機器事業」 ⇒ (新)「精密機械事業」

<セグメント情報等の開示に関する新会計基準の適用>

従来の基準では、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用について、開示上のみ一定の基準に基づき再配賦した上で事業別営業利益を計算していたが、2010年度からマネジメント・アプローチを採用した新基準が適用されたことに伴い、当該費用の再配賦計算は行わないこととした。

このため、過年度の実績についても、新基準の考え方に基づき再計算し、本資料各ページに掲載している。

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。